

*本プレスリリースはBloombergNEFが2020年10月27日に英語で発表を行ったプレスリリースを日本語に翻訳・再編集したものです。オリジナルのプレスリリースの正式言語は英語であり、この内容および解釈については下記の英語版が優先となります。英文オリジナルにつきましては[こちらのサイト](#)をご参照ください。

排出量と石炭需要がピークアウト:新型コロナウイルスの影響で 2.5年分の排出量が削減され、エネルギー転換が加速

ブルームバーグ NEF (BNEF) は調査レポート「長期エネルギー見通し (NEO) : 2020」において、
2035年に総石油需要がピークアウトし、クリーンエネルギー技術が成長するが、
世界の気温は2100年までに3.3度上昇すると発表

ロンドン・ニューヨーク、2020年10月27日 – ブルームバーグ NEF (BNEF) は最新の調査レポート「長期エネルギー見通し (NEO) : 2020」で、新型コロナウイルスのパンデミック (世界的大流行) でエネルギー需要が激減したことにより、現在から2050年までの間にエネルギーセクターで2.5年分の排出量が削減されるとの見解を示した。

BNEF 独自の経済移行シナリオを使用した、向こう30年におけるグローバル・エネルギー・システムの進展に関する最新予想では、燃料燃焼による排出量は2019年にピークアウトしたことを示している。新型コロナウイルスのパンデミックの影響で、エネルギー起源の排出量は2020年には約10%減少し、経済回復とともに再び増加しても2019年の水準に戻ることはなく、2027年以降、2050年まで年率0.7%の割合で減少する見通しだ。

この予想は、競争が非常に激しい風力発電と太陽光発電のセクターでの大量の設備導入、電気自動車 (EV) の普及、産業全体のエネルギー効率の向上が進むとの想定に基づくものだ。分析によると、風力と太陽光は、今世紀半ばまでに世界の発電量の56%を占め、蓄電池と合わせると今後30年における新しい電力容量への投資額15.1兆ドルの80%を占めるという。また、追加で14兆ドルが、2050年までに送配電網の投資に投下されることが予想されている。

石炭火力発電のピークアウトは中国で2027年、インドで2030年とみられ、2050年には石炭が世界の発電量に占める割合は12%にまで縮小するという。対照的に、ガスは見通しの全体で拡大が予想された唯一の化石燃料だ。全体では2050年まで年率0.5%で増加し、商業や民生セクターで33%、経済的な低炭素の代替物がほぼない産業セクターで23%の増加が予想されている。

しかし、エネルギー転換の進展と新型コロナによるエネルギー需要減にもかかわらず、BNEF ではエネルギーセクターの排出量が、2100年までに世界の気温を摂氏3.3度上昇させるとみている。

BNEF のジョン・ムーア最高経営責任者 (CEO) の見解: 「今後10年は、エネルギー転換にとって極めて重要な時期となろう。注目すべき点が主に3つある。1つめは風力・太陽光発電の迅速な導入。2つめは電気自動車や小規模再生可能エネルギー、エコキュートなどの低炭素熱交換技術が消費者層へより迅速に普及すること。そして3つめは、より大規模なゼロカーボン燃料の開発と導入だ」

昨年 NEO は中心テーマとして電力セクターを扱ったが、今年の調査レポートでは、産業、建設 (商業、民生)、交通の各セクターについて詳細分析の章を設け、経済的観点で2050年までのエネルギー経済の見通しを網羅している。また、調査レポートに記載される「気候シナリオ」では、クリーンエネルギーと水素を使用して気温上昇幅を2度以下に抑えるというシナリオを調査している。

BloombergNEF

NEO2020 の主要執筆者、BNEF のチーフエコノミストであるセブ・ヘンベストの見解:「電力システムに関する私たちの予想では、純粋にコストダイナミクスを前提として、再生可能エネルギーについて昨年よりもより強気に捉えている。今年の調査における注目点は、低炭素電力の分野で大きな機会がみられる点だ。これらが交通・運輸、建設、産業のそれぞれのセクターにおいて、電化とグリーン水素の双方を通じて脱炭素化を後押しするだろう」

NEO2020 では、総石油需要が 2035 年にピークアウトし、それ以降、年率で 0.7%減少し続け、2050 年には 2018 年の水準に戻ると予想されている。電気自動車は、2020 年代半ばまでの数年間で、内燃自動車との価格が同等となると予想されている。これを受け電気自動車の導入が加速すると、従来の航空、海運、石油化学の各セクターによる石油需要の伸びを相殺する見通しだ。

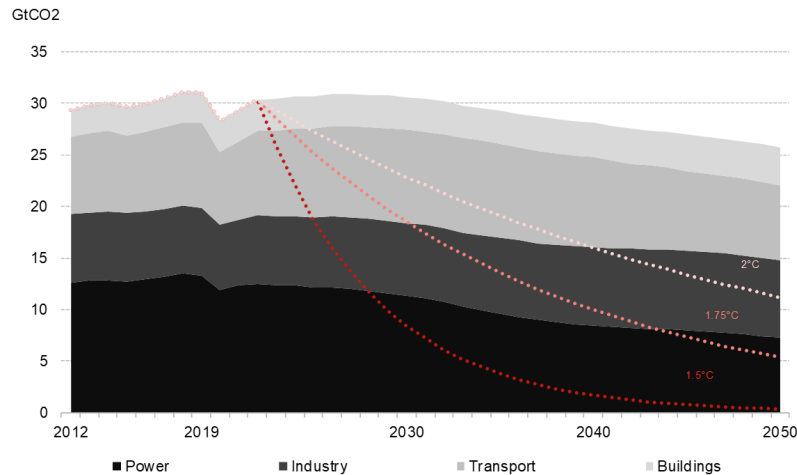
結論として、建設、産業、および航空・海運などの交通部門の特定分野でのエネルギー使用には、コスト競争力のある低炭素の代替エネルギーがほとんどないため、ガス・石油製品へ大きく依存する状況が続く見通しだ。

同調査レポートの共同執筆者、BNEF のシニア・アナリストマティアス・キンメルの見解:「世界の気温上昇を 2 度以下に抑えるには、排出量を今から毎年 6%削減する必要がある、1.5 度以下に抑制するには、排出量は年間 10%削減する必要がある」

NEO2020 気候シナリオ:

- BNEF は、中核となる経済移行シナリオと並行して、「気候シナリオ」を作成した。今年、クリーン電力と水素を使用して気温上昇を 2 度以下に抑えるシナリオを調査した。
- このシナリオは、2050 年までに 100,000TWh(テラワット時)のクリーン電力を供給する、将来の低炭素エネルギー経済を描いている。これは、今日世界で発電される総電力の 5 倍に相当し、現在の総容量の 6-8 倍の電力システムが必要になる。このエネルギーの 3 分の 2 は、運輸、建設、産業のセクターにおける直接電力供給に使用され、残りの 3 分の 1 は水素製造に利用される。
- グリーン水素の供給が最終エネルギーの 4 分の 1 未満となる場合、801MMT(100 万トン)の燃料と 36,000TWh の電力追加が必要になる。これは、現在世界で発電されている電力量を 38%上回る。風力・太陽光発電を使用すれば最も割安になる可能性があるが、14 テラワット(TW)の容量が必要となる。これは、350 万平方キロをカバーする土地の面積であり、インドの国土とほぼ同じ大きさに相当する。
- BNEF によると、このクリーン電力とグリーン水素のシナリオを実現するには、発電量と送配電網の拡大と、水素の製造、貯蔵、輸送のために現在から 2050 年までの間に 78 兆ドルから 130 兆ドルの新規投資が必要になるという。

図 1:NEO 経済移行シナリオにおけるセクター別排出量、および 1.75 度のカーボンバジェット



出所:ブルームバーグNEF

BNEF「長期エネルギー見通し(NEO):2020」のセグメント・サマリーおよび詳細は、<https://about.bnef.com/new-energy-outlook/>をご参照ください。

ブルームバーグ NEF について

ブルームバーグ NEF (BNEF) は、クリーンエネルギー、次世代交通システム、デジタル産業技術、先端材料、およびコモディティに関する不可欠な情報を提供する、有数の研究機関です。世界 6 大陸の拠点到調査・分析スタッフを配置し、世界中で最も精巧に洗練されたデータセットを生かして、BNEF は明確な見解や詳細な予想を導き出し、変貌する業界の傾向や技術の金融・経済・政策を解説します。BNEF のコンテンツは、ブルームバーグの世界 176 拠点 19,000 人のスタッフにより、1 日 5000 本のニュース記事の配信とともに、オンライン、モバイル、およびブルームバーグ ターミナルにて提供されています。詳細は、<https://about.bnef.com/>または [request more information](#) をご参照ください。

ブルームバーグについて

ブルームバーグは、世界のビジネス・金融情報およびグローバルニュースを提供する情報サービス企業です。情報・人・アイデアをダイナミックなネットワークでつなぎ、有力な意思決定権者にビジネスの勝敗を左右する強力な情報ツールを提供します。ブルームバーグの最大の強みは、迅速かつ正確なデータ、ニュース、分析機能を革新的な技術を用いて提供していることで、これが[ブルームバーグ ターミナル](#)の中核を成しています。ブルームバーグのエンタープライズ・ソリューションは、この中核となる情報・技術の上に構築されており、組織全体におけるデータや情報へのアクセスから統合、配信、管理まで、より効率的かつ効果的な業務遂行を支援します。詳細は、Bloomberg.com/company にアクセスするか、[デモをリクエスト](#)してください。